

ALPS処理水海洋放出の状況について

2026年5月28日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 2. 2025年度の設備点検結果について
 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について
 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について
 5. J8エリアタンクの解体について
 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について

2. 2025年度の設備点検結果について

3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について

4. 海洋放出に係るモニタリング実績について

5. J8エリアタンクの解体について

6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

(参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量

- 2025年度のALPS処理水放出（計7回）による、トリチウムの年間放出量は約16兆Bqであり、放出基準の22兆Bqを下回ることを確認した。
- 測定・評価対象核種（29核種）の放射能総量[Bq]は下表の通りであり、各回の測定・確認用タンク水において検出された核種について積算している。なお、各回とも告示濃度比の総和が1未満であることを確認している。

核種	放射能 総量[Bq]	核種	放射能 総量[Bq]	核種	放射能 総量[Bq]
C-14	1.7E+09	Cd-113m	—※1	Eu-155	—※1
Mn-54	—※1	Sb-125	9.4E+06	U-234	—※1
Fe-55	—※1	Te-125m	3.5E+06	U-238	—※1
Co-60	1.9E+07	I-129	2.4E+07	Np-237	—※1
Ni-63	—※1	Cs-134	—※1	Pu-238	—※1
Se-79	—※1	Cs-137	1.3E+07	Pu-239	—※1
Sr-90	6.2E+07	Ce-144※3	—※1	Pu-240	—※1
Y-90	6.2E+07	Pm-147	—※1	Pu-241	—※1
Tc-99	3.7E+07※2	Sm-151	—※1	Am-241	—※1
Ru-106	—※1	Eu-154	—※1	Cm-244	—※1

※1：分析結果が検出限界未満（ND）のため放射能総量[Bq]に換算していない。

※2：2025年度における計7回放出のうち、分析結果が検出値となった3回分のみ換算。

※3：2025年度第3回放出より、測定・評価対象核種から除外。

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 - 2. 2025年度の設備点検結果について**
 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について
 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について
 5. J8エリアタンクの解体について
 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

2 - 1 . 2025年度の設備点検の概要

- 測定・確認用タンクC群の点検が終了し、2025年度に計画していた点検は全て完了。機器の性能に影響を与える異常は確認されなかった。
- 点検結果を踏まえ、放出完了までの長期的な設備の運用を考慮した設備の機能維持について、引き続き検討していく。

設備名	主な点検内容	点検状況
測定・確認用設備	測定・確認用タンクC群：全面内面点検	完了（異常なし（次頁で報告））
	循環ポンプ：分解点検	完了（異常なし（2025年11月27日報告済み））
	攪拌機器：絶縁抵抗測定他	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
	その他：ストレーナ清掃等	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
移送設備	ALPS処理水移送ポンプ：軸受け潤滑油交換	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
	緊急遮断弁-1：分解点検	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
	緊急遮断弁-2：外観点検	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
	その他：ストレーナー清掃等	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
希釈設備	海水移送ポンプA系：分解点検	完了（異常なし（2025年12月25日報告済み））
	海水移送ポンプB系：グランドパッキン交換	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
	海水移送ポンプC系：グランドパッキン交換	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
	海水移送配管・海水配管ヘッダ：内面点検	完了（異常なし（2026年1月29日報告済み））
	放水立坑（上流水槽）：内面点検	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
放水設備	放水立坑（下流水槽）、放水トンネル：内面点検	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））
取水設備	仕切堤：外観点検	完了（異常なし（2026年1月29日報告済み））
	取水路A系：清掃、内面点検、補修	完了（異常なし（2026年2月26日報告済み））

2-2. 測定・確認用タンクC群の点検結果詳細

- 測定・確認用タンクC群は、内面点検を実施し、異常がないことを確認し、2026年4月28日に点検完了。
- タンク内面から超音波厚さ計による板厚測定を実施し、必要板厚以上であることを確認。
※板厚測定：最小板厚：14.36 mm (必要板厚：10.2mm)

<補修塗装前>



全体に見られる茶色の部分：水垢等の汚れ

<補修塗装後>



測定・確認用タンクC群 (C7タンク) の内部状況

2－3．2026年度の設備点検の概要

- 2026年度も下表の通りの定例点検を計画。

設備名	主な点検内容	点検実施予定時期
測定・確認用設備	測定・確認用タンクA群：全面内面点検	2026年10月～2027年5月頃
	循環ポンプ：軸受け潤滑油交換	2026年9月～2026年11月頃
	攪拌機器：絶縁抵抗測定他	2026年10月※ ¹ ～2027年5月頃
	その他：ストレーナ清掃等	2026年8月※ ¹ ～2027年5月頃
移送設備	ALPS処理水移送ポンプ：分解点検	2026年11月～2027年2月頃
	緊急遮断弁-1：分解点検	2026年11月～2027年2月頃
	緊急遮断弁-2：外観点検	2027年1月～2027年2月頃
	その他：ストレーナー清掃等	2026年8月※ ¹ ～2027年5月頃
希釈設備	海水移送ポンプA系：グランドパッキン交換	2026年11月～2027年2月頃
	海水移送ポンプB系：分解点検	2026年11月～2027年2月頃
	海水移送ポンプC系：グランドパッキン交換	2026年11月～2027年2月頃
	海水移送配管・海水配管ヘッダ：内面点検	2026年11月～2027年2月頃
	放水立坑（上流水槽）：内面点検	2026年11月～2027年2月頃
放水設備	放水立坑（下流水槽）、放水トンネル：内面点検	2026年12月～2027年2月頃
取水設備	仕切堤：外観点検	2026年12月～2027年2月頃
	取水路B系：清掃、内面点検、補修	2026年11月～2027年2月頃

※1:各系統の設備停止期間中に実施

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 2. 2025年度の設備点検結果について
 - 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について**
 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について
 5. J8エリアタンクの解体について
 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

3-1. 概要

- ALPS処理水は、海洋放出前に放出基準（トリチウムを除く放射性核種の告示濃度限度比の和が1未満）を満足しているか確認しており、その対象となる核種として「測定・評価対象核種（29核種）」を分析している。
- 測定・評価対象核種は、実施計画に定めるフローに基づき選定しており、保守的にALPS処理前の汚染水中に有意（告示濃度限度の1/100以上）に存在しているかを基準に選定している。また、理論上は汚染水中に存在する可能性があるが過去の汚染水・処理水の分析では有意な濃度で検出されなかったことがない核種については、フローの最終段階で測定・評価対象核種から除外している。
- 他方、汚染水中の放射性物質の濃度は、今後の廃炉作業の進捗等によって変化する可能性が考えられることから、フローの最終段階で除外した核種（5核種）を「監視対象核種」として設定し、ALPS処理前の汚染水において、監視対象核種が有意な濃度で存在しないことを1年に1回、継続的に確認している。

* 監視対象核種（5核種）

Cl-36 塩素	Nb-93m ニオブ	Nb-94 ニオブ	Mo-93 モリブデン	Ba-133 バリウム
--------------------	----------------------	---------------------	-----------------------	-----------------------

- 2025年度の監視対象核種の分析の結果、監視対象核種5核種の全てで告示濃度限度の1/100未満であることを確認（分析結果の詳細は次頁参照）。また、実施計画に定めるフローに基づき、2026年度における測定・評価対象核種の再評価を行い、対象核種に変更がないことを確認。

3－2．監視対象核種の分析結果について

- 監視対象核種が汚染水中に有意な濃度で存在しないことを確認するために、2025年度採取のALPS入口水を分析した。結果は下表の通り。
- 監視対象核種5核種 (Cl-36, Nb-93m, Nb-94, Mo-93, Ba-133) 全て、告示濃度限度の1/100未満であることを確認。
- なお、2023年度の監視対象核種の分析で有意な濃度で検出されたため、2024年度第4回放出から測定・評価対象核種に選定したCd-113mについても、傾向を確認するため自主的に測定したところ、昨年度同様、告示濃度限度（4.0E+01Bq/L）の約13/100にあたる5.1E+00Bq/Lで検出。

<監視対象核種の分析結果>

分析核種	試料採取箇所	試料採取日	分析結果 (Bq/L)	告示濃度限度の 1/100 (Bq/L)
Cl-36	ALPS入口 (ALPS処理前の汚染水)	2026/2/6	ND ($< 3.2\text{E}+00$)	9.0E+00
Nb-93m			ND ($< 1.3\text{E}+01$)	7.0E+01
Nb-94			ND ($< 7.3\text{E}-01$)	5.0E+00
Mo-93			ND ($< 1.6\text{E}+00$)	3.0E+00
Ba-133			ND ($< 3.3\text{E}+00$)	5.0E+00

3-3. 測定・評価対象核種について

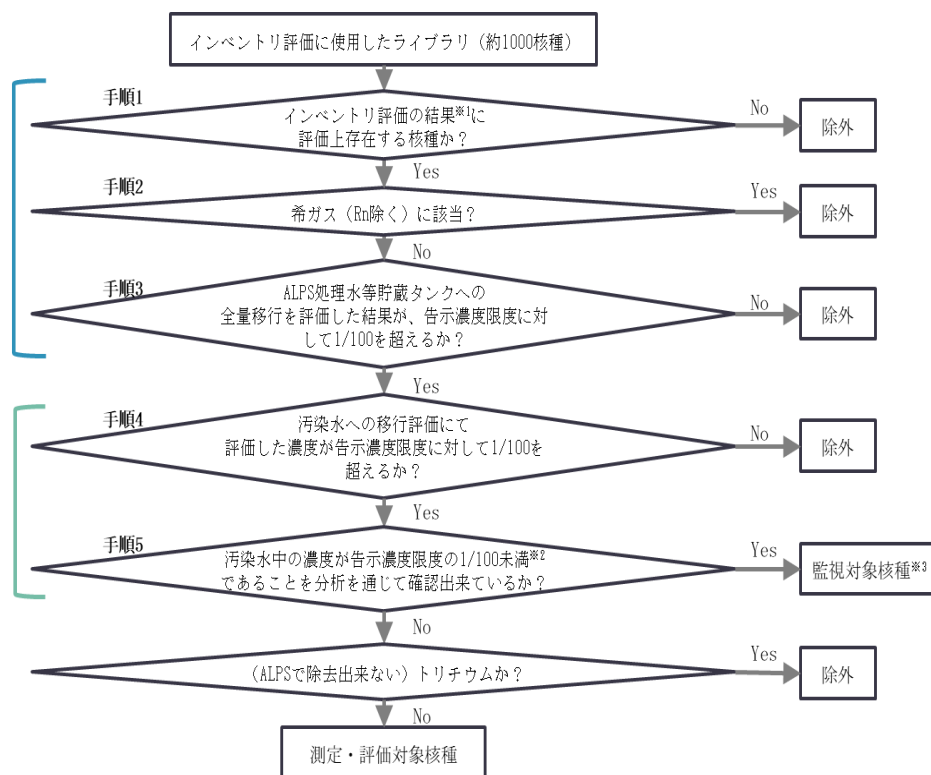
- ALPS処理水は、海洋放出前に放出基準（トリチウムを除く放射性核種の告示濃度限度比の和が1未満）を満足しているか確認しており、その対象となる核種として「測定・評価対象核種（29核種）」を分析している。
- 測定・評価対象核種は実施計画に定める下記のフローに基づき選定しており、保守的にALPS処理前の汚染水中に有意に存在しているかを基準に選定している。
- 現在の測定・評価対象核種（29核種）は以下の通り。測定・評価対象核種については、フローに基づき、毎年度再評価することとしており、2026年度における再評価を実施した結果、対象核種に変更がないことを確認した。

【測定・評価対象核種（29核種）】

C-14 炭素	Sr-90 ストロンチウム	Te-125m テルル	Eu-154 ユロピウム	Pu-239 プルトニウム
Mn-54 マンガン	Y-90 イットリウム	I-129 ヨウ素	Eu-155 ユロピウム	Pu-240 プルトニウム
Fe-55 鉄	Tc-99 テクネチウム	Cs-134 セシウム	U-234 ウラン	Pu-241 プルトニウム
Co-60 コバルト	Ru-106 ルテニウム	Cs-137 セシウム	U-238 ウラン	Am-241 アメリシウム
Ni-63 ニッケル	Cd-113m カドミウム	Pm-147 プロメチウム	Np-237 ネプツニウム	Cm-244 キュリウム
Se-79 セレン	Sb-125 アンチモン	Sm-151 サマリウム	Pu-238 プルトニウム	

インベントリ
評価を踏まえ
た検討

上記に加え、
実測データや
核種の性質を
踏まえた検討



※1：インベントリ評価の減衰期間は、選定結果を使用する時期に応じて適切に設定（初回は2023年（事故後12年）に設定）

※2：過去に検出されたことのある核種は検出値の最大値、一度も検出されたことのない核種は検出下限値の最小値で確認

※3：汚染水中に有意に存在しないか継続して確認する核種

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 2. 2025年度の設備点検結果について
 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について
 - 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について**
 5. J8エリアタンクの解体について
 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

4 - 1. 海域モニタリングの実績 (1/2)

- 放水口付近（発電所から3km以内）の10地点、放水口付近の外側（発電所正面の10km四方内）の4地点で採取した海水について、迅速に拡散状況を把握するための迅速モニタリングにおいてトリチウム濃度を測定した結果は、いずれも指標（放出停止判断レベル、調査レベル）を下回っている。

(単位: Bq/L)

	試料採取点*3	頻度	2026年4月								2026年5月		
			21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	4日	5日	11日
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	-	-	<5.9	-	-	-	<7.9	-	<8.1	-	-
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	-	-	<5.9	-	-	-	<6.9	-	<8.1	-	-
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	-*4	-*4	<6.0	-*4	<7.7	<6.6	-*4	<7.5	<6.7	-	<7.1
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	-*4	-*4	<7.7	-*4	<7.8	<6.6	-*4	<7.7	<8.2	-	<7.1
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	-*4	-*4	<7.7	-*4	<7.7	<6.7	-*4	<7.4	<6.7	-	<7.1
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	-	-	<6.1	-	-	-	-*4	-	<8.2	-	-
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	-	-	<7.7	-	-	-	-*4	-	<8.2	-	-
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	-	-	<6.0	-	-	-	-*4	-	<6.3	-	-
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	-*4	-*4	<6.0	-*4	<7.7	<6.6	-*4	<7.7	<6.3	-	<6.4
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	-	-	<6.0	-	-	-	-*4	-	<6.3	-	-
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	-	-	-	-	-	-	-	<7.6	-	<8.7	<6.4
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※: <○ は検出限界値○Bq/L未滿を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1: 放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

*2: 放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3: 試料採取点の位置は「(参考) 海域モニタリングの計画」を参照

*4: 悪天候のため採取中止

4 - 1. 海域モニタリングの実績 (2/2)

(単位 : Bq/L)

	試料採取点*3	頻度	2026年5月		
			18日	19日	25日
放水口 付近	5,6号機放水口北側 (T-1)	2回/週*1	-	-	-
	南放水口付近 (T-2)	2回/週*1	-	-	-
	北防波堤北側 (T-0-1)	1回/日*2	<5.9	-	<7.1
	港湾口北東側 (T-0-1A)	1回/日*2	<5.9	-	<7.2
	港湾口東側 (T-0-2)	1回/日*2	<5.9	-	<7.1
	港湾口南東側 (T-0-3A)	2回/週*1	-	-	-
	南防波堤南側 (T-0-3)	2回/週*1	-	-	-
	敷地北側沖合1.5km (T-A1)	2回/週*1	-	-	-
	敷地沖合1.5km (T-A2)	1回/日*2	<8.7	-	<7.0
	敷地南側沖合1.5km (T-A3)	2回/週*1	-	-	-
放水口 付近の 外側	敷地沖合3km (T-D5)	1回/週	<8.7	-	<7.0
	請戸川沖合3km付近 (T-S3)	1回/月	-	<7.6	-
	敷地沖合3km付近 (T-S4)	1回/月	-	<7.5	-
	熊川沖合4km付近 (T-S8)	1回/月	-	<7.5	-

※ : <○ は検出限界値○Bq/L未満を示す。 は検出された値を示す。 : ALPS処理水放出期間

*1 : 放出期間中および放出終了日から1週間は2回/週実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/月実施

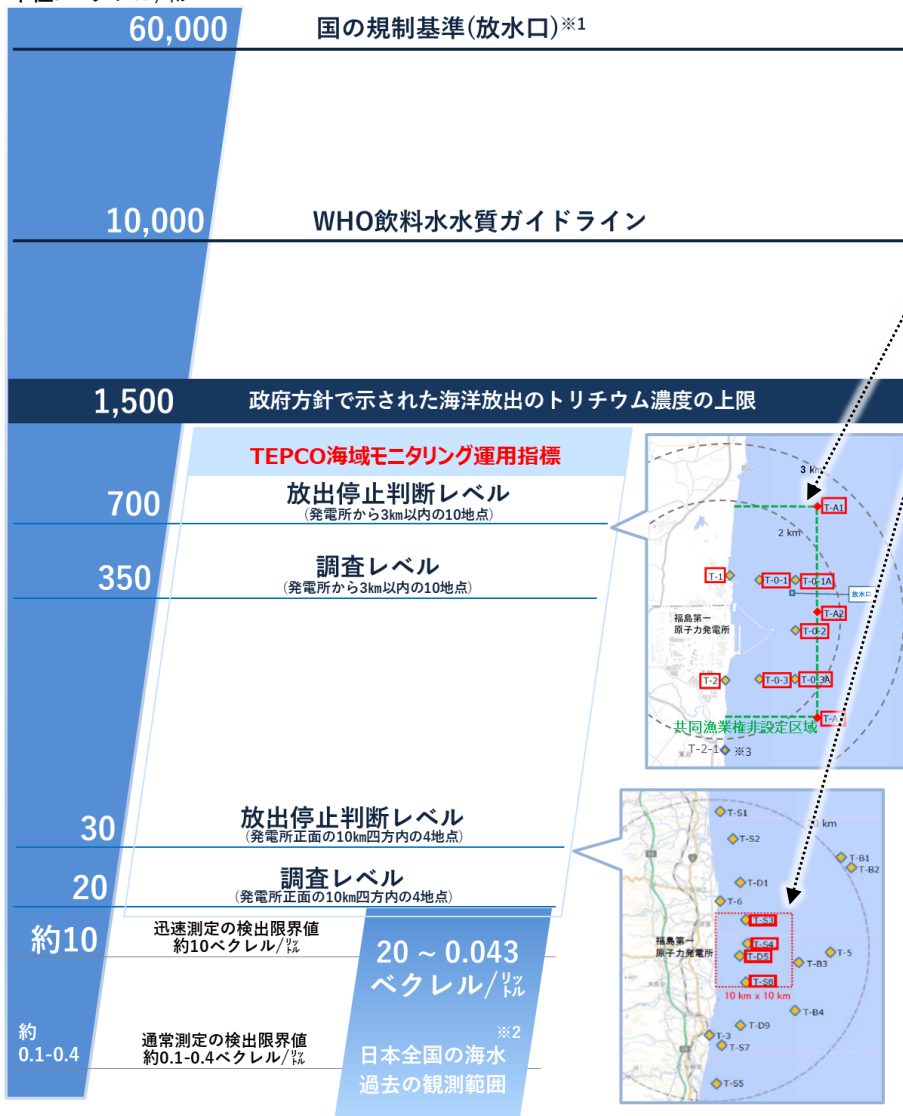
*2 : 放出期間中および放出終了日から1週間は1回/日実施、放出停止期間中（放出終了日から1週間は除く）は1回/週実施

*3 : 試料採取点の位置は「(参考) 海域モニタリングの計画」を参照

【補足】海水のトリチウム濃度の比較

【参考】海水のトリチウム濃度の比較

単位: ベクレル/ℓ



- 当社の運用上の指標として、放出停止判断レベルおよび調査レベルを設定している。

	放出停止判断レベル	調査レベル
発電所から3km以内	700 Bq/L	350 Bq/L
発電所正面の10km四方内	30 Bq/L	20 Bq/L

＜放出停止判断レベルを超過した場合＞
海洋放出を速やかに停止

＜調査レベルを超過した場合＞

設備・運転状況の確認、採取頻度の強化を検討

- 指標（放出停止判断レベルおよび調査レベル）を超えた場合でも、法令基準60,000 Bq/LやWHO飲料水水質ガイドライン10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態であると考えている。

- 今後、放出する処理水のトリチウム濃度に応じて海水濃度も影響を受け、これまでより高い分析値が検出されることも想定される。それらの場合でも、調査レベルなどの指標を下回るものと考えている。

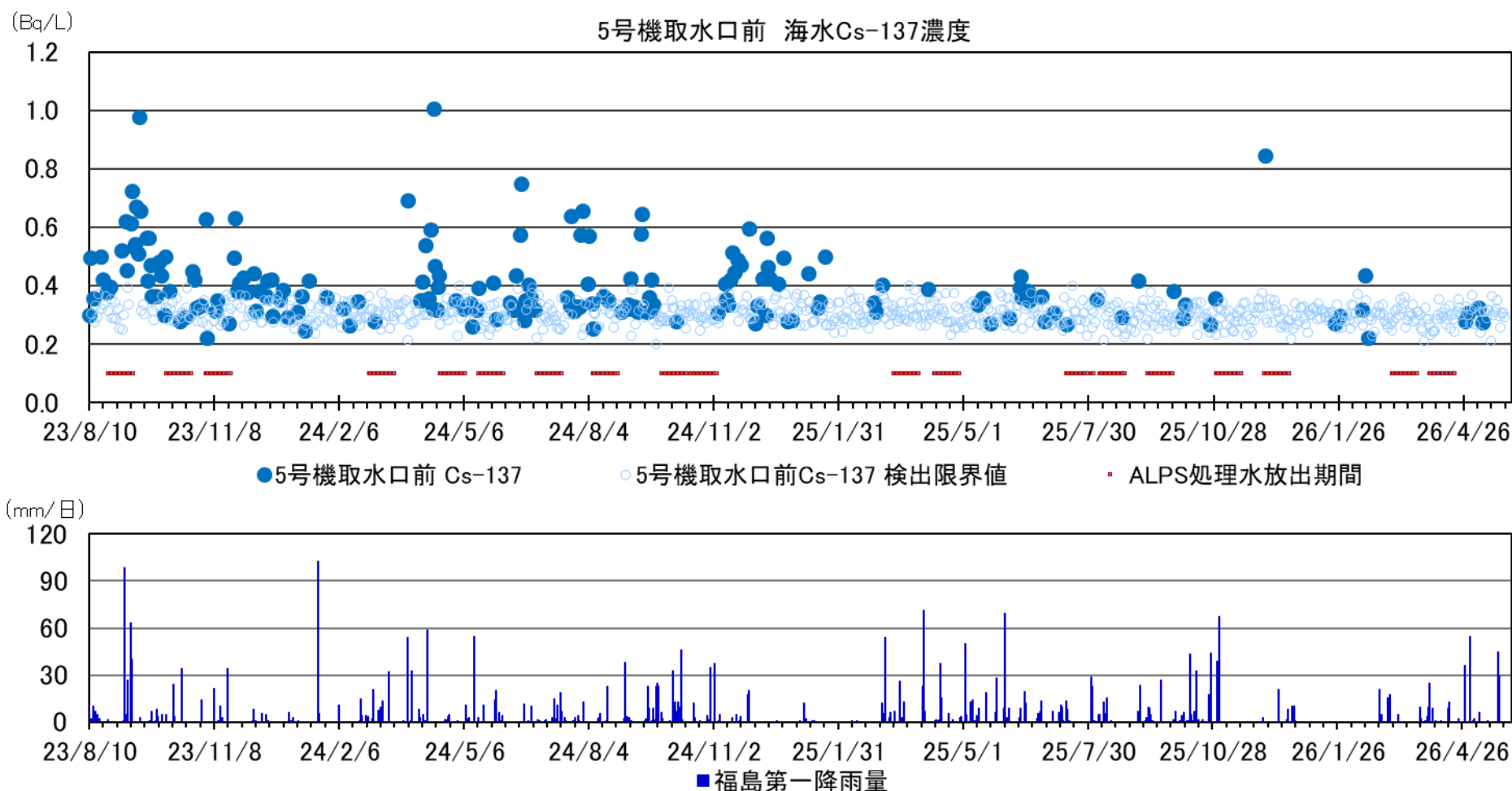
※1: 原子力施設の放水口から出る水を、毎日、その濃度で約2ℓ飲み続けた場合、一年間で1ミリシーベルトの被ばくとなる濃度から定められた基準

※2: 出典「日本の環境放射能と放射線」（期間：2019/4～2022/3）

※3: T-2で安全が確保出来ない場合の代替地点

4 - 2. 5号機取水路のモニタリングについて

- ALPS処理水の放出期間中の希釈用海水の取水口付近での海水モニタリング結果は、放出停止期間中の値と同程度であることを確認している。



TEPCO

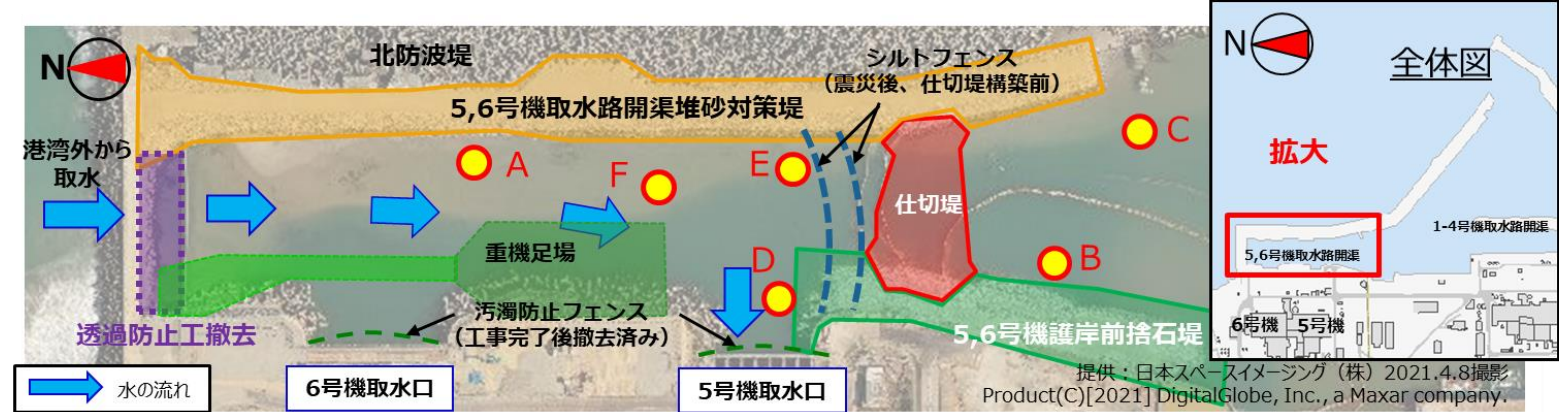
- 引き続き、海底土モニタリングを継続実施していく。



4－3． 5/6号機取水路開渠内の海底土モニタリング結果（2）

TEPCO

➤ 2022年8月～2026年5月までの5/6号機取水路開渠内の海底土モニタリング結果を以下に示す。



採取地点		工事開始前	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	
		2017～2022年7月	8月～3月	4月～3月	4月～3月	4月～3月	4月	5月
A-1 5,6号開渠北側 (シルトフェンス北側 GL±0m)	Cs-134	ND～9.5 (4.4)	ND (31.5～39.8)	ND～65.5 (32.0)	ND (34.4～64.5)	ND (29.7～92.3)	ND (24.3)	ND (34.8)
	Cs-137	163.6～678.6	303.2～468.1	216.7～2975.0	461.7～2107.0	258.1～1352.0	316.9	204.3
A-2 5,6号開渠北側 (シルトフェンス北側 GL-0.5m)	Cs-134	ND～20.0 (25.6)	ND (32.5～38.3)	※浚渫により砂を撤去したため、表面（GL±0m）のみ実施				
	Cs-137	310.0～689.8	299.1～404.0	-	-	-	-	-
B 仕切堤南側① (シルトフェンス南側)	Cs-134	723.0	ND～73.9 (42.1)	ND～97.1 (38.2)	ND (35.1～64.5)	ND (35.7～84.1)	ND (63.8)	ND (45.4)
	Cs-137	6,475.0	412.8～3,331.0	323.8～4943.0	613.8～1889.0	200.1～1889.0	1,408.0	2,040.0
C 仕切堤南側② (シルトフェンス南側)	Cs-134	183.0	ND～51.3 (30.9)	ND～234.8 (37.1)	ND (26.5～48.6)	ND (25.1～50.7)	ND (38.8)	ND (25.2)
	Cs-137	1,893.0	360.8～2,671.0	295.9～9519.0	227.4～419.6	182.1～633.3	233.6	304.0
D 5号機取水口	Cs-134	—	101.6～3,546.0	ND～690.7 (50.3)	ND～114.8 (35.9)	ND (37.6～80.5)	ND (53.4)	ND (52.7)
	Cs-137	—	3,301.0～144,000.0	951.7～26400.0	1563.0～2306.0	1380.0～2306.0	1,509.0	1,026.0
E 仕切堤北側	Cs-134	—	—	ND～161.2 (35.6)	ND (30.0～59.7)	ND (36.0～82.8)	ND (40.5)	ND (53.5)
	Cs-137	—	—	437.1～5795.0	746.6～4154.0	882.6～3652.0	1,654.0	1,921.0
F 重機足場東側	Cs-134	—	—	ND～166.1 (31.3)	ND (34.1～87.1)	ND (34.1～69.2)	ND (58.3)	ND (38.7)
	Cs-137	—	—	592.4～8303.0	891.0～1884.0	1122.0～2187.0	713.2	404.5

(注) 単位：Bq/kg、灰色ハッチング箇所は「当該期間中すべてのデータが検出限界値未満」を示す、上表のうち()内の数値は、「検出限界値」を示す

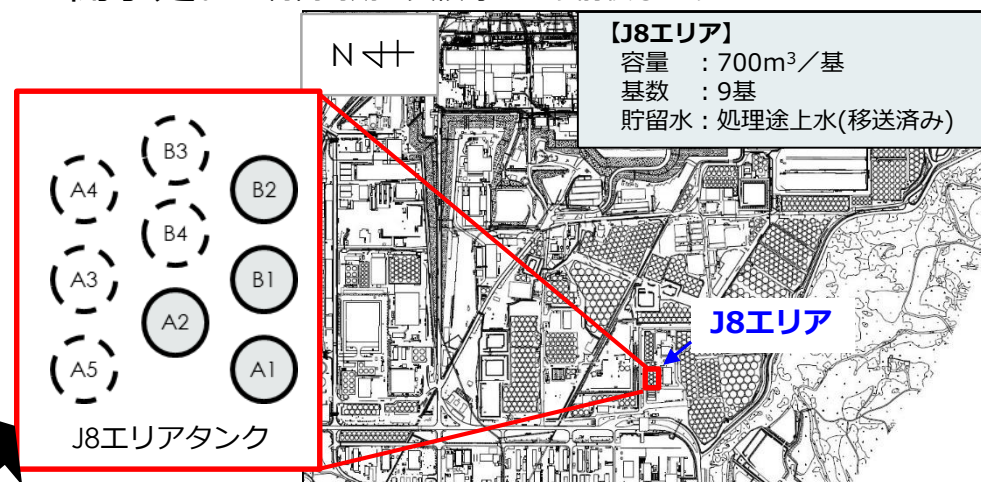
1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 2. 2025年度の設備点検結果について
 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について
 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について
 - 5. J8エリアタンクの解体について**
 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

5. J8エリアタンクの解体について

- J8エリアタンクについては、2025年11月20日に運用停止し、2026年1月20日から解体に着手。
- 2026年4月10日に、5基目のタンク解体が完了。
- 6基目の解体は4月13日に着手。5月から10月までの暖候期は作業を中断し、11月頃に作業を再開予定。 ※再開時期は天候等により前後します。

＜タンク解体実績表＞

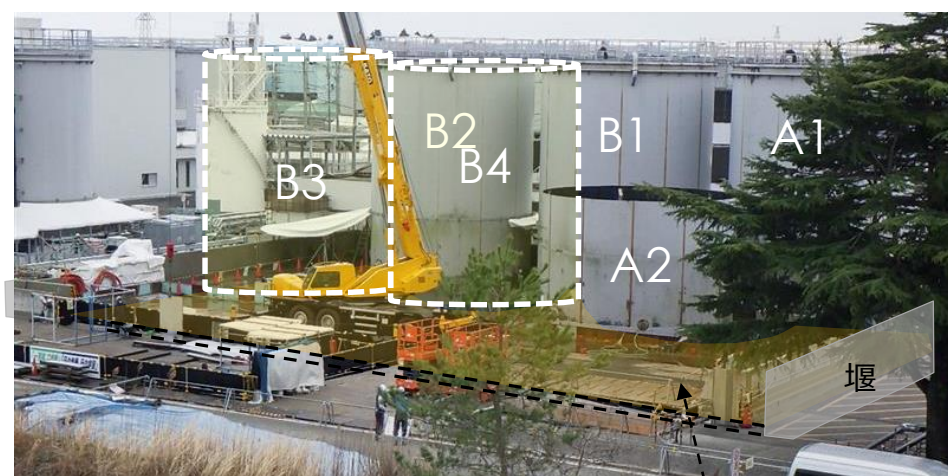
解体完了 タンク	解体完了日	解体完了 タンク	解体完了日
A 4	2026/2/17	A 2	—
A 3	2026/2/27	B 2	—
A 5	2026/3/9	B 1	—
B 3	2026/4/3	A 1	—
B 4	2026/4/10		



写真撮影方向



＜2026年1月15日撮影＞



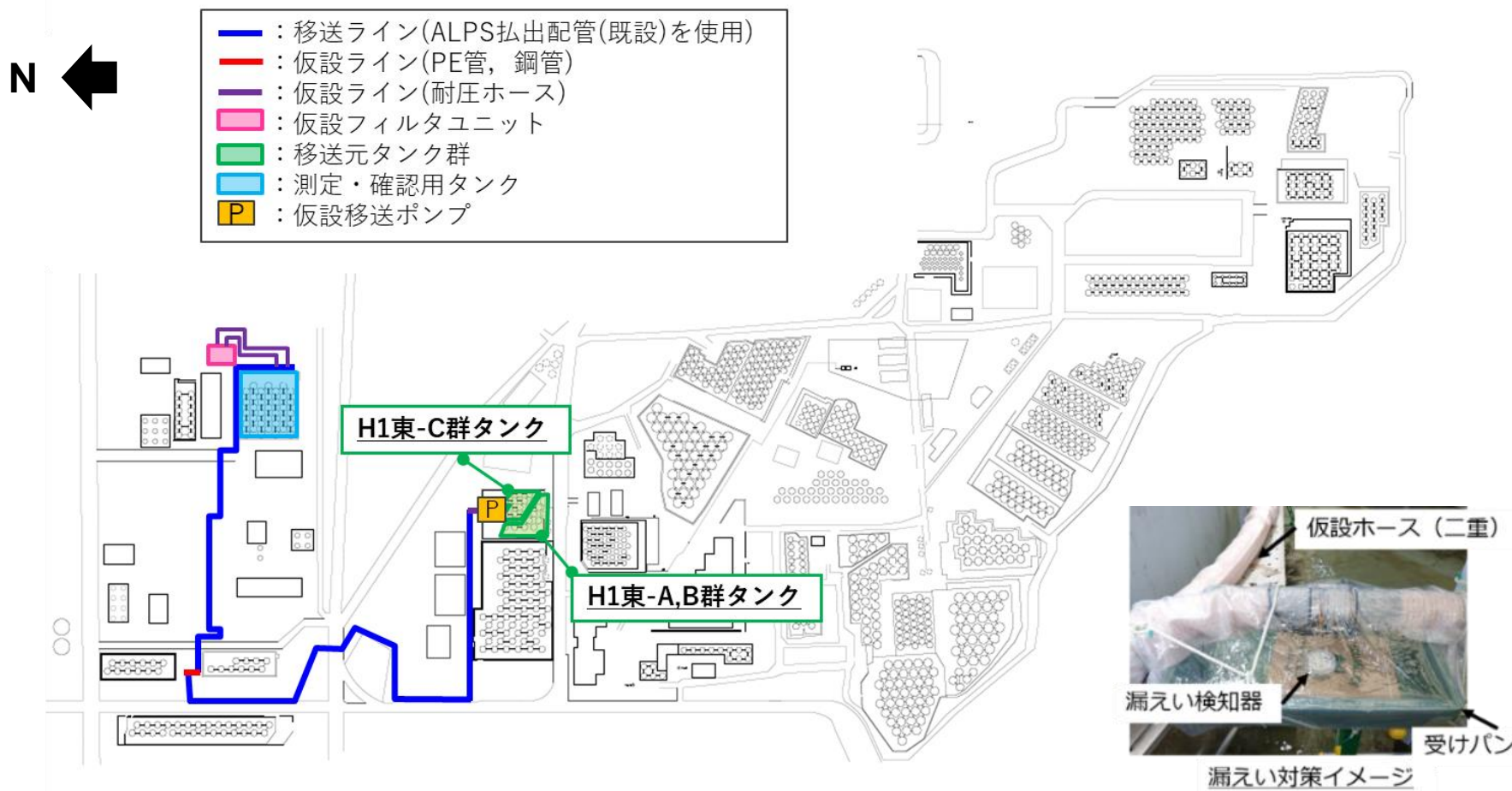
＜2026年4月21日撮影＞

タンク解体に伴い出来たスペースは
作業ヤードとして利用

1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 2. 2025年度の設備点検結果について
 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について
 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について
 5. J8エリアタンクの解体について
 - 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について**
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績

6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について

- 管理番号：26-3-21の放出に向けたH1東-C群、H1東-A/B群から測定・確認用設備A群への移送を実施（2026年4月22日～2026年5月20日。移送量（実績）：7,780m³（H1東-C:3,580m³、H1東-A/B:4,200m³））。2026年5月22日から循環攪拌運転を実施し、2026年5月29日にサンプリング予定。
- 管理番号：26-4-22の放出に向けたH1東-A/B群から測定・確認用設備C群への移送を2026年5月22日から実施し、2026年6月上旬頃に移送完了予定。



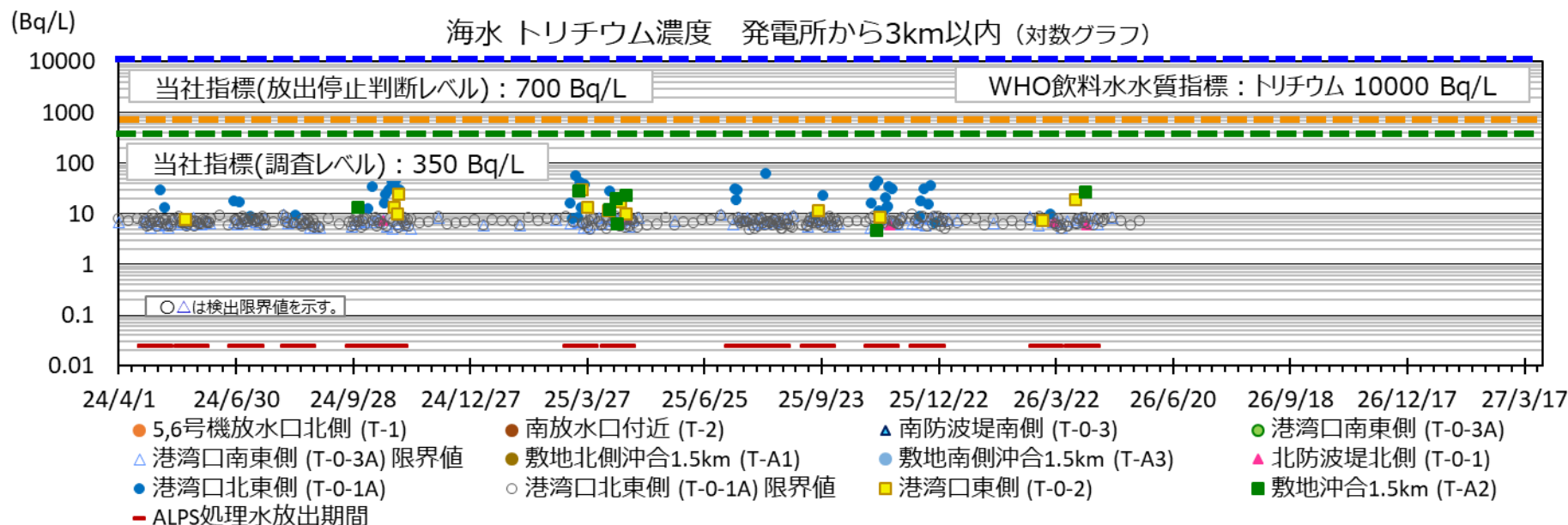
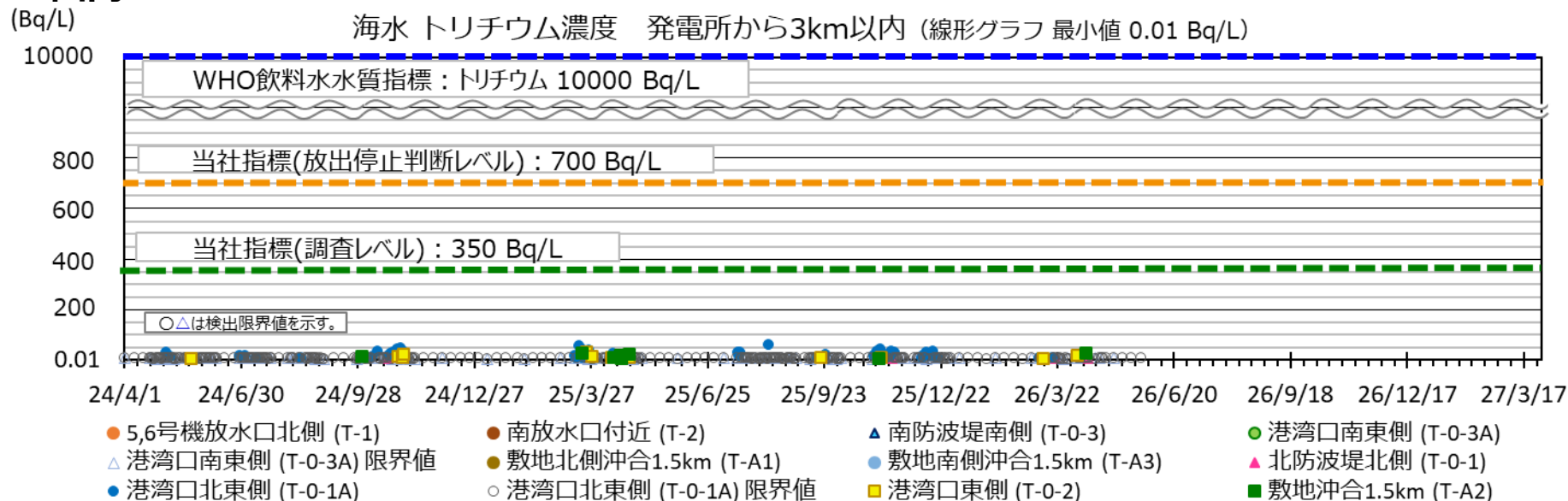
1. 2025年度のALPS処理水放出に伴う年間放出量について
 2. 2025年度の設備点検結果について
 3. 2025年度の監視対象5核種の分析結果について
 4. 海洋放出に係るモニタリング実績について
 5. J8エリアタンクの解体について
 6. 今後の放出に向けたALPS処理水の移送について
- (参考) 放出開始以降の海域モニタリングの実績**

(参考) 海域モニタリングの実績 (1/2)

迅速モニタリング

TEPCO

3km圏内

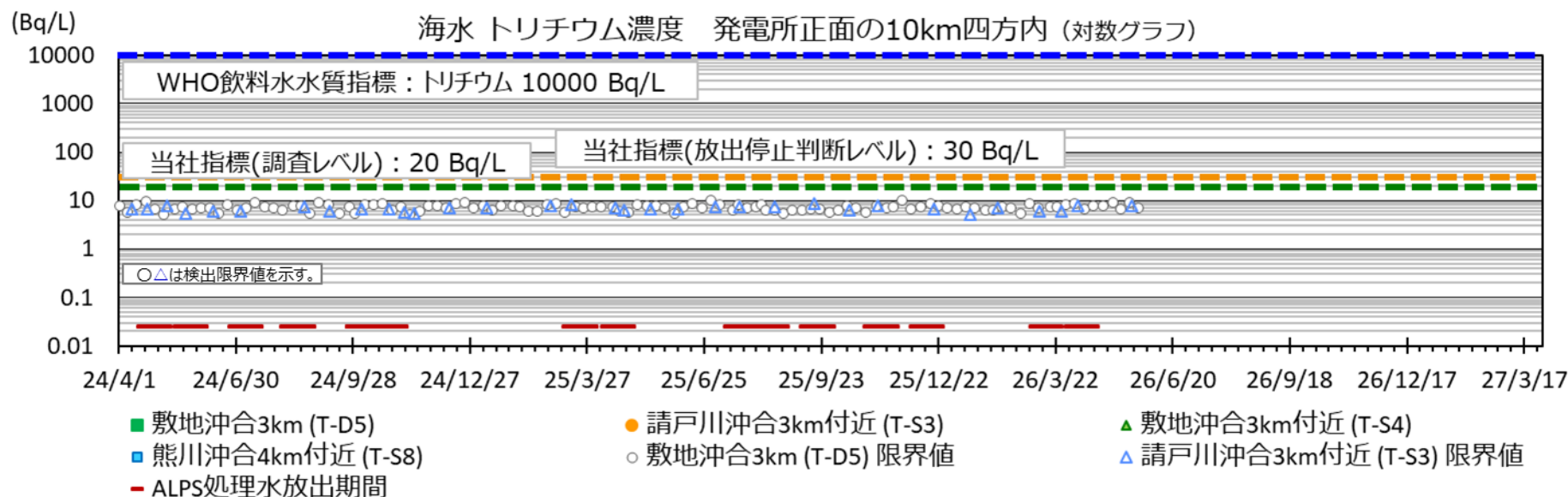
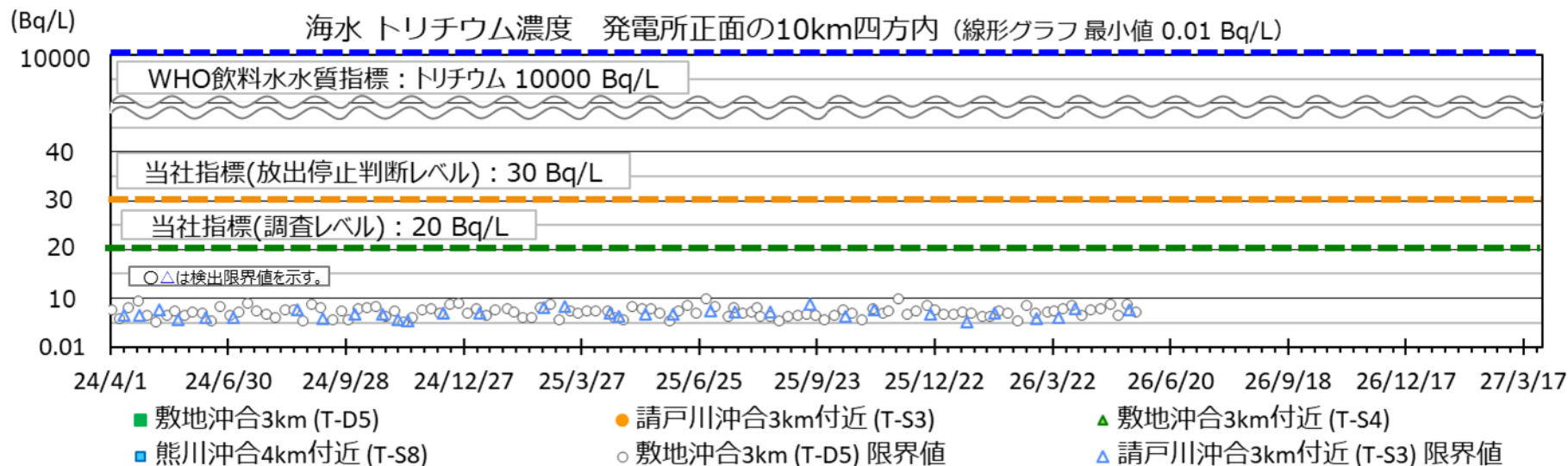


(参考) 海域モニタリングの実績 (2/2)

迅速モニタリング

TEPCO

10km四方内



(参考) 海域モニタリングの計画

海水トリチウム 迅速モニタリング

TEPCO

- 海水トリチウム濃度を迅速に把握するため、検出限界目標値を10 Bq/Lとした迅速モニタリングを開始し、放出停止を判断する指標（放出停止判断レベル）を設定

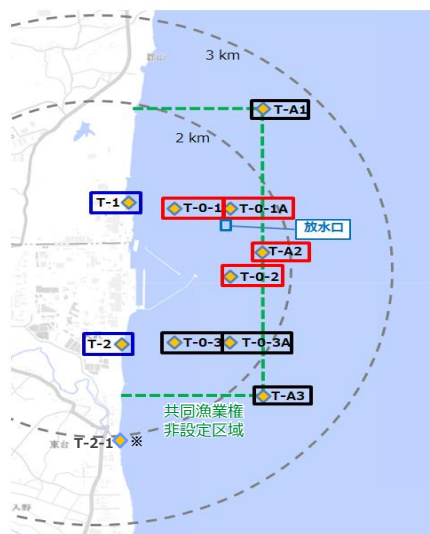


図1 試料採取地点 発電所から3km以内（放水口付近）

■ ■ ■: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（10地点）

指標（放出停止判断レベル）700ベクレル/ℓ

※ T-2で安全が確保出来ない場合の代替地点

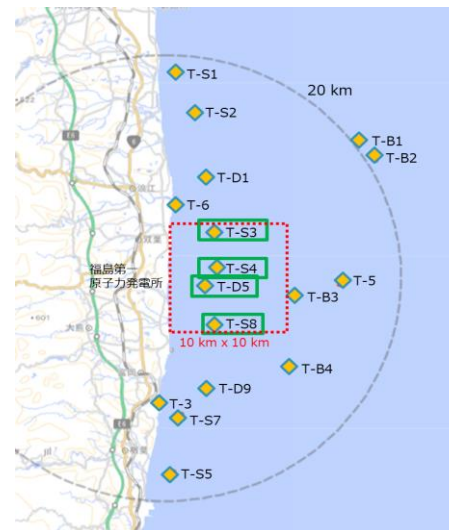


図2 試料採取地点 発電所正面の10km四方内

■: 迅速に結果を得るモニタリング対象地点（4地点）

指標（放出停止判断レベル）30ベクレル/ℓ

	【図1】発電所から3km以内（放水口付近）		【図2】発電所正面の10km四方内 4地点 ■
	放水口周辺4地点 ■	その他6地点 ■ ■	
放出期間中および 放出終了日から1週間	毎日※1	週2回※2	T-D5:週1回 T-S3,T-S4,T-S8 : 月1回
放出停止期間中 (放出終了日から1週間を除く)	週1回※2	月1回※2	

※1 放出期間中に荒天のため連続して2日間欠測し、翌日（3日目）も欠測が予測される場合には、3日目はT-1、T-2の迅速に結果を得る測定を行う。

※2 2023年8月の放出開始以降、毎日モニタリングを実施してきましたが、放出中の実績等を踏まえ、2023年12月26日からモニタリング計画を変更した。

(2023年12月25日公表)